

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	みんなで作る！「Spice+」～若者の参加による現場体験データベースの作成とマッチングと協働の仕組みづくり	
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人アクションポート横浜
	行政	横浜市市民局市民活動支援課
事業の目的	若者がより社会課題を知り、地域への愛着を深められるようにレポーターとして活動に参加する機会を設ける。そのレポートにより、NPOの情報を掲載し、より多くの人が活動体験に参加できる情報発信・マッチングを行うデータベースおよびwebサイトを作成する。活動体験の受入団体間のネットワークを作り、市民活動を支える人材育成も行う。	
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 発信の担い手となる若者レポーターを育成し、多世代参加でデータベースを作る 2 体験活動データベースの作成：現場体験のパッケージ化により広くマッチングを実現 3 体験活動データベースによる情報発信：NPOの現場のリアルな声を伝え、社会的価値を高める 4 受入団体を中心とした団体間ネットワークの提供とノウハウの発信 	
役割及び責任分担等	別紙のとおり	
実施期間	平成27年4月1日から平成28年3月31日まで	

記入日	平成 28 年 6 月 26 日
記入者	<ul style="list-style-type: none"> ・団体等名： 特定非営利活動法人 アクションポート横浜 ・記入責任者 氏名： 高城 芳之 連絡先： 045-662-4395
	<ul style="list-style-type: none"> ・部署名： 横浜市市民局市民活動支援課 ・記入責任者 氏名： 課長 岩岡 敏文 連絡先： 045-227-7915

別紙

事業項目	申請者の役割	交付決定者の役割
活動レポーター養成講座及び定例会の実施	<ol style="list-style-type: none"> レポーター養成講座の参加者の募集及び実施を行う 定例会の実施とレポーター間の情報共有を図る 	<ol style="list-style-type: none"> レポーター募集に当たって、交付決定者の広報媒体を活用した広報の協力 レポーター養成講座の開催に当たって必要な情報提供
掲載団体の募集	<ol style="list-style-type: none"> 活動体験の実施・登録をしてくれる NPO、団体の募集を行う 受入団体がお互いに情報交換やノウハウの共有ができるように情報共有の仕組みづくりを行う 	<ol style="list-style-type: none"> 活動体験の実施・登録をしてくれる NPO、団体の募集に当たって、交付決定者のネットワークを活用した広報の協力 データベース掲載の NPO の候補先に関する情報提供
データベースの発信力の向上	<ol style="list-style-type: none"> 情報の発信先として企業や大学、既存メディアと連携し、閲覧数を増やす データベースチームでも定期的に会議（SNS 上）を行い、より効果的な発信について検討する 	交付決定者の関係サイトとの連携やリンクの打診、調整等、WEB サイトの認知度アップに向けた広報の協力
参加者と団体のマッチング	<ol style="list-style-type: none"> 体験活動の参加者を募集し、参加者と団体のマッチングを行う 受入団体の事前事後のフォローアップを行い、活動内容のブラッシュアップや新たな体験コース作りも支援する 	参加者募集に当たって、交付決定者の広報媒体を活用した広報の協力
現地ツアーの開催	WEB に掲載されている団体への現地ツアーを開催する	現場ツアー実施に当たっての協力
事業継続運営に向けた検討	事業を継続していくために収入の確保や支出を抑える工夫など検討する	事業継続運営に向けた必要な情報の提供
その他事業の実施に当たり、必要となること	<ol style="list-style-type: none"> 他の自主事業団体との連携・協力 申請者として必要になる情報公開及び説明責任に関する業務 申請者として今後必要になる事業の検証 交付決定者との打ち合わせ等を通じた意見交換の実施 	<ol style="list-style-type: none"> 他の自主事業団体との連携・協力についての調整及び協力 交付決定者として必要になる情報公開及び説明責任に関する業務 交付決定者として必要になる事業の検証 申請者との打ち合わせ等を通じた意見交換の実施

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	B	B
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	A	C
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	B	B
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。	B	C
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合ってよく理解することができましたか。	A	B
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	C

②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	C
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	C	C
3	相手に任せきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	D	D
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	C	C
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	C	C
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	B	C
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	B

③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合って共有できたか。	B	C
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合って確認することができたか。	B	B
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	C	C
4	期待された事業成果を得られることができたか。	B	B

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	地元企業を核とした地域課題解決力を高め合うコミュニティ作り	
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人 エティック
	行政	横浜市市民局市民活動支援課
事業の目的	① 地域で企業と NPO、学校、商店街、自治会・町内会等が協働する事例を創出する。 ② 副次的に、大学生インターンシップを絡めながら①の目標達成を目指すことで、受け入れ企業社員と大学生等の若い世代の人材育成を同時に行う。	
事業の内容	平成 27 年度は、「 <u>地元企業を核とした地域貢献のための 6 つの視点</u> 」の設定と「 <u>3 つのアプローチ</u> 」による <u>実際のケース事例の創出</u> に取り組んだ。またこうした理想的な企業と地域社会の関係性を示す事例（私達が直接関わっていない事例も含む）を調べ、地域に根差した経営を行う企業やそこで働く若手社員に対する 情報収集と啓発 にも取り組んだ。具体的には説明会を経て 5 社を選出、個別支援で地域課題解決に企業が取り組む際の座組や推進の仕方、PDCA サイクルの検証、インターン生を介した間接支援等を行った。	
役割及び責任分担等	別紙の通り	
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日～28 年 3 月 31 日	

記入日	平成 28 年 6 月 22 日
記入者	・団体等名： 特定非営利活動法人 エティック ・記入責任者 氏名： 田中 多恵 連絡先： 03-5784-2115
	・部署名： 横浜市市民局市民活動支援課 ・記入責任者 氏名： 課長 岩岡 敏文 連絡先： 045-227-7915

別紙

事業項目	申請者の役割	交付決定者の役割
受入企業、インターンシップ生の募集	インターンを受け入れてくれる企業及びインターンシップ生を募集する	インターン受入企業インターンシップ生の募集について、交付決定者の広報媒体を活用した情報発信に関する協力
企業担当者向け研修・インターンシップ生への趣旨説明	学生の上司役となる社員への研修及びインターンシップ生への趣旨説明を行う	事業の実施にあたっての必要な情報提供
イベントの実施	受入企業募集時と事例発信にあたり、啓発イベントを行う	イベント開催にあたり、必要な情報の提供
マルチステイクホルダーミーティングの開催	ミーティングの場の設定と課題解決に向けたコーディネートを行う	開催にあたり、必要な情報の提供
その他事業の実施にあたり必要となること	<ol style="list-style-type: none"> 1 他の自主事業団体との連携・協力 2 申請者として必要になる情報公開及び説明責任に関する業務 3 申請者として今後必要になる事業の検証 4 交付決定者との打ち合わせ等を通じた意見交換の実施 	<ol style="list-style-type: none"> 1 他の自主事業団体との連携・協力についての調整及び協力 2 交付決定者として必要になる情報公開及び説明責任に関する業務 3 交付決定者として必要になる事業の検証 4 申請者との打ち合わせ等を通じた意見交換の実施

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	B	B
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	C	C
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	C	C
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	C	B
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	B	C
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	C	D

②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	B	B
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	C	B
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	C	C
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	B	B
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	B	B
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	C	C
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	C	C

③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。	C	C
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	C	C
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	C	C
4	期待された事業成果を得られることができたか。	C	C

3 事業評価相互検証シート 事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結

果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 企業は、市民や受益者に含まれないのか？ 企業が考える地域課題に寄り過ぎることには気を付けたいが企業もその地域で経営をしていて、働いている社員は地元の人であることも多いと思う。一部の企業の利益になるような取組にしたいが、地域の課題の把握というところが大変難しかった。
【今後改善が必要と思われること】 この事業を通じて出すべき成果のイメージを具体的にしてほしい。 (例えばどういう成果が出せれば成功なのか。定性定量面から。)
事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 企業が地域で課題解決に取り組むことの価値は少しずつ共有できてきていると感じる。
【今後改善が必要と思われること】 プロジェクトの成果をどのような形で発信するか、どういう状態にもっていったら、企業が注目し、自分達も続こうと思ってもらえるか。
事業の成果 (協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)
両者の強みを生かしながら事業に取り組むためにはさらなる工夫が必要。
自由記入欄

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及事業	
事業の実施者	団体等	横浜コミュニティカフェネットワーク
	行政	横浜市市民局市民活動支援課
事業の目的	カフェが中間支援役割を果たす意義や支援機能充実のために必要な要素を整理し、カフェの現状や課題、ニーズを確かめる。それらに基づき、具体的な個別カフェへの支援で、市内に中間支援機能を有するカフェを増やし機能強化を図る。同時に、市域の中間支援組織である当団体の支援力向上も目指す。事業成果はフォーラムや報告書で広く共有する。	
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティカフェ訪問調査 ・先進事例研究 ・カフェ支援会議 ・公開フォーラム開催 ・報告書、啓発冊子の制作発行 	
役割及び責任分担等	別紙のとおり	
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで	

記入日	平成 28 年 6 月 28 日
記入者	<ul style="list-style-type: none"> ・団体等名： 横浜コミュニティカフェネットワーク ・記入責任者 氏名： 齋藤 保 連絡先： 045-520-8550
	<ul style="list-style-type: none"> ・部署名： 横浜市市民局市民活動支援課 ・記入責任者 氏名： 課長 岩岡 敏文 連絡先： 045-227-7915

別紙

事業項目	申請者の役割	交付決定者の役割
カフェ訪問調査の実施	カフェ訪問調査を行う	訪問調査の実施にあたっての協力
先進事例研究	研究会の開催、事例調整を行う	研究会の開催にあたっての協力
カフェ支援会議の開催	支援会議の開催と支援先との調整を行う	支援会議の開催にあたっての協力
公開フォーラムの実施	公開フォーラムを企画し、実施する	<ol style="list-style-type: none"> 1 公開フォーラム開催にあたっての協力 2 交付決定者の広報媒体を活用した広報に関する協力
報告書・啓発冊子の素材作成	1年目の成果をまとめ、WEBに中間報告を掲載する	中間報告作成にあたっての必要な情報を提供するとともに、交付決定者の広報媒体を活用した情報発信に関する協力
その他事業の実施にあたり必要となること	<ol style="list-style-type: none"> 1 他の自主事業団体との連携・協力 2 申請者として必要になる情報公開及び説明責任に関する業務 3 申請者として今後必要になる事業の検証 4 交付決定者との打ち合わせ等を通じた意見交換の実施 	<ol style="list-style-type: none"> 1 他の自主事業団体との連携・協力についての調整及び協力 2 交付決定者として必要になる情報公開及び説明責任に関する業務 3 交付決定者として必要になる事業の検証 4 申請者との打ち合わせ等を通じた意見交換の実施

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	B	B
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	B	B
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	B	C
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	A	B
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	C	C
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	B

②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	B
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	B	B
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	C
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	C
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	B
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	B
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	B

③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。	C	B
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	A	B
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	C
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	B

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 初年度に、現状把握や整理を進める計画だったため、現状把握の共有がない中での計画提案で、数値目標の設定の擦り合わせに難しさはあった。
【今後改善が必要と思われること】 初年度の実績や経験、対話をもとに、次年度以降の計画づくりに反映させていく。
事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 コミュニティカフェの果たしている役割についての理解や可能性については初年度の議論整理を通じて共有できたと感じている。支援効果の測り方については、現状で中間支援志向のコミュニティカフェの母数が少ないため、関心の掘り起しや認知向上と同時に支援を行う必要があり、支援団体数だけで測れない部分も大きい。その点については認識に違いを感じる。
【今後改善が必要と思われること】 事業成果を測る視点についての検討擦り合わせが必要と思われる。
事業の成果 (協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)
協働で事業実施したことで、公開フォーラムに多数の行政関係者の参加がえられたこと、区民活動支援センターを初めとする区域の中間支援組織や活動拠点の会議での事業発表やアンケート実施の機会を得られたことで、当初想定した以上の事業効果が得られた。
自由記入欄